

[担当教員]

中江研(教授) 近藤民代(教授) 堀内啓佑(助教)

[Teaching Assistant]

石黒萌夏(A72) 小林利彰(A72) 菅原慎司(A72) 落合洗介(A71)

■課題概要

現代社会では、夫婦と子どもからなる核家族が「標準的な家族」の形として認識されることが多く、住宅も標準化された核家族の生活を前提に計画されてきた。その一方で、近年、人口減少や少子高齢化、女性の社会進出、晩婚化、インターネットを介したコミュニケーションの発達などといった社会的変化を背景に、従来の標準的な家族の枠組みに当てはめることのできない、多様なライフスタイルを持つ世帯が増加しつつある。今後さらに、個人・家族・地域社会の関係性や、働き方、趣向・価値観などが大きく変わっていくことが予想されるなかで、住宅にはどのような役割が求められているのだろうか。

本課題では、このような社会の変化を自分自身で想像しながら、従来型の住宅パラダイムにとらわれることなく、「これからのライフスタイルを見据えた住宅」を提案してほしい。

■敷地：以下の3つの敷地から1つを選択する

- ・敷地 A (約 200 m²): 阪急六甲駅北側。斜面の住宅地の一画。幹線道路沿い。商業地域(建蔽率 60%、容積率 200%)。
- ・敷地 B (約 160 m²): 八幡神社の南側。参道沿い。第1種中高層住居専用地域(建蔽率 60%、容積率 200%)。
- ・敷地 C (約 300 m²): 阪神・淡路大震災土地区画整理事業区域内。北側に六甲道北公園。第1種住居地域(建蔽率 60%、容積率 200%)。

■提出物・用紙

(1) 所用図面：配置図兼1階平面図 1:100、各階平面図 1:100、立面図 1:100、断面図 1:100、模型写真、外観スケッチ、透視図、

設計主旨・面積表

(2) 用紙:A3用紙(仕上げ、彩色等自由)



国土地理院 地理院地図 (<https://maps.gsi.go.jp/>) をもとに編集者作成
課題敷地

中庭を介して繋がる家

藤田答子

自然豊かな場所で中庭を中心に家族が繋がる2世帯住宅。大きな中庭を通信に配置し、それを介して家族の繋がりを生み出している。また曲線の外形は柔らかな暮らしやすさを感じさせる効果を持つ。社会の影響を受けて家族がそれぞれの事情を抱える中で、お互いが思いやり支え合えるような住宅を目指した。

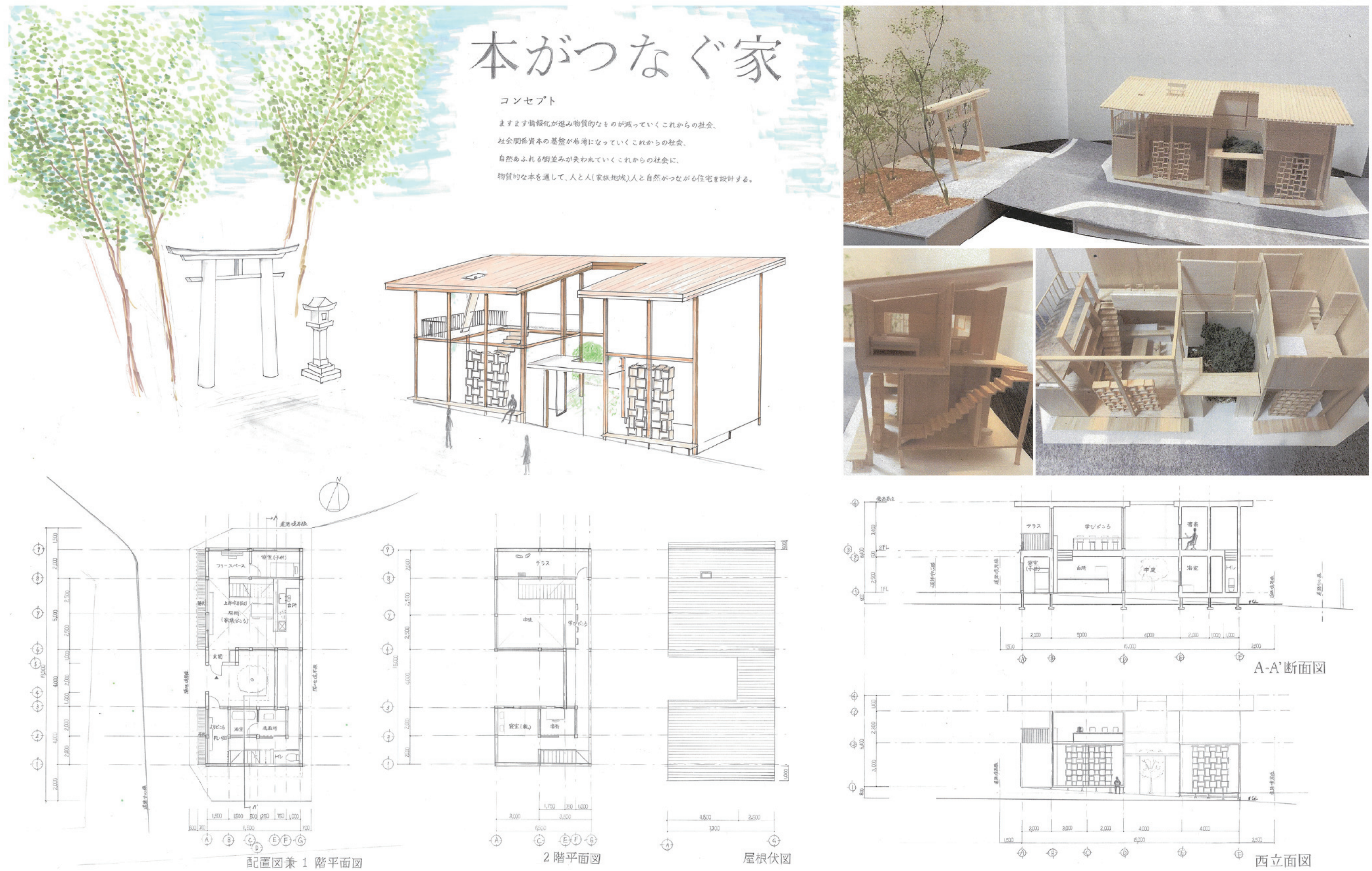
中庭を介して 繋がる家



本がつなぐ家

吉田美貴

ますます情報化が進み物質的なものが減っていくこれからの社会、社会関係資本の基盤が希薄になっていくこれからの社会、自然あふれる街並みが失われていくこれからの社会に、物質的な本を通して、人と人（家族・地域）、人と自然がつながる住宅を設計した。



繋ぐ、つながる家

山本奈奈

母親がフルタイムで働く母子家庭と、子どもが巣立った後の老夫婦が共に暮らすシェアハウスを設計した。プライバシーを保ちながらも固有空間と共有空間の境界を曖昧にし、それぞれの生活の中に“一家”の繋がりを生むことで、血のつながりのない2世帯が心地よく共につながり助け合う空間を目指した。

